

令和元年度 協議会総会を開催

2019.6.20



総会会場にて



【写真】左から、会長／須賀伸一氏、県科学技術振興課長／宮本善光氏、県産業戦略部技監／児玉弘則氏、茨城大学准教授／西野創一郎氏、
(株)関東技研副技師長／遠藤洋氏、同設計グループ管理責任者／澤幡優氏、副会長／小野洋伸氏、 右上J-PARCセクター長／齊藤直人氏

6月20日13時30分から、いばらき量子ビーム研究センター(IQBRC)大会議室において、令和元年度県内中性子利用連絡協議会総会が開催されました。

冒頭、須賀会長(日本アドバンステクノロジー(株)代表取締役社長)並びに県を代表して科学技術振興課／宮本課長から、『これを機に一層の飛躍を』との開会挨拶をいただきました。続いて、事務局／石田から昨年度の活動報告や実績統計等の説明の後、本年度の計画をご説明しご支援とご協力をお願いしました。

その後、3件の技術発表がありました。最初に「中性子産業利用の現状と茨城県の取り組みについて」県産業戦略部／児玉技監から昨年度のJ-PARC利用実績や成果と今後の展望についての報告がありました。次いで具体的なJ-PARC利用事例として、茨城大学／西野准教授から「中性子回折による圧入部品の内部応力解析」と題して、塑性解析における事例紹介がありました。またJ-PARCからの受注事例として「水銀ターゲット調査用遠隔操作装置の開発」に関して、(株)関東技研／遠藤副技師長と澤幡氏から装置の開発背景とその経過が発表され関心を集めました。約20分の休憩時間には、会場後部に設定した企業展示コーナーが好評で多くの出席者が情報交流しました。

休憩後には、J-PARC／齊藤センター長をお招きし「J-PARCで未来を加速する」の演題のもと、特別講演をいただきました。大強度化の流れの中で、J-PARCの世界的な位置づけ、ニュートリノやハドロンで解明できることから素粒子・原子物理のイントロに至るまで



企業展示・交流コーナーで

具体的な事例を交え、軽妙な語り口で解説いただきました。会場からは質疑も出て、出席者の関心の高さをうかがわれました。

最後に、小野副会長(株)関東技研代表取締役社長)の『相互研鑽と共に発展を祈念する』旨の閉会挨拶があり盛会のうちに閉幕しました。なお、本総会には78名(含事務局)が出席し、本年度協議会活動のスタートを切る好機となりました。

福島第一原発見学会

2019.6.26

いまだ多くの帰還困難者を生じさせた福島第一原子力発電所(1F)の過酷事故は、多くの教訓を残しました。今廃炉措置に向け多数の技術者と作業員が従事しています。こうした廃炉過程でのビジネスチャンスを探るため、いばらき成長産業振興協議会が主催し本協議会共催のもと、1F見学会が6月28日開催され27名(含事務局)が参加しました。当日は、最初に専用バスで職員案内のもと、1F構内を見学し、凄まじい現場の姿を目の当たりにしました。

その後1F近隣の廃炉資料館に移動し、燃料集合体やデブリの取出し、増え続ける地下水との戦いなど、赤裸々な現状の課題を聞くとともに遠隔操作ロボットなどの解決手段を見学。廃炉現場の課題解決に向け何ができるのか、多くの質疑の中に企業側のその意欲が見られた見学会でした。



廃炉資料館での説明

1号機(東電資料から)